グループホーム すみれの里
（別紙4） 平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270103338		
法人名	有限会社 すみれの里		
事業所名	グループホームすみれの里		
所在地	長崎県長崎市富士見町15番5号		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	平成30年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成30年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

8床から9床に定員を増床しました。
以前と変わらず女性だけの入所者で構成されているグループホームです。
この2年間で3名の看取りがありました。スタッフも経験を積み、より入居者･御家族の思いをどんなケアが必要なのかを考えながら、日々勉強している施設です。
医療連携もしっかり保たれているので、安心安全な日々を提供できるよう頑張っています。
誕生日会やお出掛けなど併設事業所(小規模多機能型居宅介護)と合同で行って交流を深め、お互いに良い刺激を与えながら生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営推進会議に限らず、普段から一般の見学者を受け入れる等、開かれた事業所である。事業所は、認知症を正しく理解し、行動抑制のない介護を実践している。今年度から職員は年間目標を定め、介護者としての意識を高めるよう取り組んでいる。職員の管理者への信頼は厚く、職場復帰する職員の多さやチームワークの良さから働き易い環境であることがわかる。意思疎通困難な利用者にハンドクリームを用い、ハンドマッサージすることで、コミュニケーションを図り、本人の表情が柔らかくなっている等、職員の利用者に楽しんでもらいたいという思いが、随所にみられる。医療体制、夜勤看護職員体制は、本人･家族の24時間の安心や信頼と共に、チームでの看取り支援を可能としている。季節のイベントや花見、自宅近辺へのドライブなど「今このときを大切に！」の基本理念の下、利用者がいつも笑顔で暮らし続けられるよう支援に努める事業所である。

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

グループホーム　すみれの里

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで理念を唱和し、理念に従って職務を行うように努力している。新しく入った職員にも理念を理解してもらい、全員が同じ方向を向いて仕事をしていけるように心がけている。	理念「今、このときを大切に！」を、職員は毎朝の申し送り時に唱和している。新人職員は、新人研修にて学んでいる。職員は、介護度が進んできた利用者が、笑顔で楽しく共同生活が送れるよう、レクリエーションやドライブなどで気分転換を図るなど、理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、自治会便りが届いています。また、毎日の生活の中で、散歩の時には近隣の公園に出掛け、地域の方々と挨拶をしたり、声をかけていただいています。	自治会に加入しており、地域広報紙や自治会長から情報を得ている。地域夏祭りに協賛し、職員は手伝っている。老人会から食事会やゲーム大会に招待があり、体調を考慮し、参加できるように努めている。日向ぼっこや公園の散歩にて、近隣の人と挨拶するなど気軽に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長、副会長に参加していただき、認知症について理解していただけるように話し合いをしたり、また、町内の老人クラブの活動を報告していただき、参考にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、自治会長、副会長、福祉総務課の方々に参加していただき、サービスの向上に生かしています。	年6回、規程のメンバーで開催している。入居者状況、日々の活動や行事報告、ヒヤリハット報告、その他意見交換がある。メンバーの意見から、家族や自治会長参加の反映例がある。家族へ議事録の発送を行い状況を伝えているが、更なるメンバーの増員はこれからである。	運営推進会議の取組みを広く知って貰い、たくさんの意見や助言を得るためにも、メンバーを増やす工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題や質問などを相談させていただき、より良い生活を支援できるように連携を図っています。	管理者が、行政窓口へ介護認定や手続きで訪問し、その他、電話でも気軽に質問や相談を行っている。介護相談員を年1回受け入れている。行政からの研修案内には、参加できるように努め、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のミーティング、毎日の申し送り、ミニカンファレンスなどで身体拘束について話し合い、周知徹底を図っています。	管理者は、認知症を正しく知ることが大切だと考え、内部研修にて理解を深めている。言葉遣いを含め行動を抑制しない旨、常々、職員に伝えており、職員は月1回のミーティング、随時カンファレンスで検討している。日中は開錠し、見守りにて拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じように、常に話し合う機会を持ち、日頃より虐待や拘束について考えながら、業務に追行している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用しているご利用者様が二名いるので、それぞれの後見人の役割などを理解しながら支援しています。また、後見人の方の面会時に、わからないことを相談したり、教えていただきスタッフのスキルアップに生かしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書や重要事項説明書を十分に説明し、理解して頂けるように努力しています。疑問や不安なことがある場合はその都度お答えできるように努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しており、面会時には必ず、家族との話をするようにしています。意見などはカンファレンス、運営推進会議などに反映させていただき、充分に意向に沿えるよう努力しています。	意見や相談窓口、意見箱の活用について、利用開始時に説明している。毎月、ホーム便りを送付する他、家族訪問時に利用者の様子を伝えている。電話で話すこともある。家族の訪問時には職員から声を掛け、話しやすい雰囲気になるよう努めている。家族からの意見は、管理者へ報告しサービス向上に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミニカンファレンス、月1回の全体ミーティングで意見を出してもらえるような環境つくりをしている。	毎日のミニカンファレンスや毎月のミーティング時に、職員は意見・提案している。代表も日頃からホーム職員の意見を聞いており、今年から職員が個人目標を設定し、取り組んでいる。職員の意見から、棚を改良したり備品を購入している。また、希望を聞きシフトに反映しており、働きやすい職場環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミニカンファレンスやミーティングを通して、職員の意見を出せるような環境つくりをしながら、業務上の問題点を話し合えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい年の最初の全体ミーティングではそれぞれの目標を立て、その目標を達成出来るよう努力すること。また、月１回勉強会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部勉強会に参加することや、同じ系列の事業所と意見を交換し、同業者との交流を図れるように努力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人と充分話鵜をし、情報を取り入れながら、そこで得た情報を職員間で共有し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を聞く機会を多く作るように努力している。電話などを利用しながら、より多くの情報をいただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、家族や職員と話し合い素早く対応出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様を人生の先輩とする尊敬の気持ちを職員全体で共有しており、日々多くのことを学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を交換しながら生活状況を把握していただけるように努力している。家族の思いを大切にしながら、より良いサービスが出来るように関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの物を持参して頂いたり、面会、電話など本人の要望に応じて対応している。毎日の生活の中で、ご家族の写真を見たり、お話を聞いて、関係が途切れないように努力ている。毎年ご利用者様の出来る範囲で暑中見舞い、年賀状を送っている。	利用開始時の情報提供票を基に、生活歴を作成している。日常会話から新たに得た情報は、個別に記録し情報共有している。職員は、利用者と馴染みの場所へドライブに出掛けている。家族や知人の訪問、外出は自由であり、家族等へ手紙や電話でのやり取りを支援し、馴染みの人との関係が途切れないように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	助け合ったり、支えあう場面が見られる時もある。リビングでの椅子の配置に配慮したり、トラブルにならないように見守りながら、関係性の維持に努めている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、何時でも相談して頂けるように連絡したり、関係が途切れないようにしている。町で偶然お会いした時も、お互い気軽に挨拶をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を素早く察知し、検討している。表現が困難な場合は家族の話、生活歴、日々の生活の中から思いや希望を汲み取るように努めている。毎日の生活の中で、職員がご利用者様に話しかける場面を持つように心がけています。	職員は利用者と触れ合いながら、会話の時間を作り、利用者との信頼関係を築くよう努めている。利用者の思いを優先し無理強いせず、起床時間や食事などの生活リズム、洋服や化粧品など身支度は本人の意向に沿っている。会話から得た情報は、個人記録やミニカンファレンスで情報共有し、サービス向上に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族などから情報収集し、その人らしい生活を送っていただけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、個人記録、ミニカンファレンスなどで、情報共有すると共に、変化や状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り、個人記録、ミニカンファなどで情報を共有し、状態の変化に気を付けている。ご家族からは運営推進会議、面会時、必要な時は電話などを利用し、意見をいただき、それを介護計画に反映させている。	利用開始から2、3日で利用者の状況を見極め、本人・家族の意向をもとに、ケアマネージャーが暫定プランを作成している。その後長期6ヶ月、短期3ヶ月の介護計画を立てており、利用者の思いを表記と共に、わかりやすい支援内容となっている。思いを反映した介護計画は、本人、家族の了承を得て実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やミニカンファレンスなどで情報を共有し、また、話し合いながら支援し、計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長崎独自のお祭りに出掛けたり、季節の行事など施設内で工夫し行っている。毎日の生活の中では散歩やドライブに出掛け、お手伝いも一人一人の状況に合わせ無理のないよう手伝っていただいています。また、時には出前をとり、食事を楽しんでいただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育所のお宮日ごっこを見物したり、幼稚園のクリスマスコンサートを聴きに行きました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週連携医療機関より往診に来て頂きながら、急変時なども対応して頂いている。病状に応じて他科への受診は事業所でお連れしている。	かかりつけ医は、利用者・家族の意向を優先しており、職員が通院を支援し、別に随時往診もある。協力医は毎週毎、歯科は定期往診がある他、訪問看護ステーションの看護師にきめ細かな相談に応じて貰っている。夜間緊急時は、管理者が24時間対応の協力医へ指示を仰ぎ、適切な医療を受けられる連携体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師の訪問が週に一度あり、ご利用者様の情報や気づきを伝え相談している。また、管理者が看護師であるため、日常的にきめ細やかな相談に応じてもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師、また地域連携室と連絡を取って退院後の支援に生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期の方針について指針を作成しており、入所時に同意を得ている。スタッフ全員が団結し、医師、訪問看護と連携を取り、家族にも協力していただきながら取り組んでいる。	契約時、看取り指針をもとに家族に説明し同意書を得ている。利用者の状態変化時、主治医を交えた話し合いにて家族の意向確認している。昨年は2例の看取り支援を行った。職員は、主治医や訪問看護師に支援方法を尋ねている。管理者も職員の心の支えとなり、不安軽減に努め、チームで看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加して学び、それを実践につながるように職員同士でスキルアップに努めています。また、年2回の総合避難訓練の時には消防職員に緊急時の対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防火管理者の研修を受けた職員が作成する消防計画書に基づき、毎月の避難訓練、年2回消防署立会いで総合避難訓練を行なっていますが。近隣住民の参加にはまだ結びついていません。	消防署立会いは併設法人施設と合同で、年1回実施している。今年は昼間想定の火災訓練を行っており、毎月の火災訓練は、昼夜間想定の計画書に沿って火災訓練を実施している。ただし、自然災害対策、地域連携、夜間専門職員の訓練参加、備蓄整備はこれからである。	近年の異常気象から見て、自然災害対策は必要である。また、夜間の有事に備えて、夜間専門職員の訓練参加はもとより、利用者の見守りのため地域住民の訓練参加が望まれる。電気、ガスが使用できない事態に備えて、備蓄整備にも期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様を人生の先輩とする尊敬の気持を職員全体で共有している。トイレ、入浴時の誘導、声かけなどは一人ひとりの性格に合わせ、十分に配慮し、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	トイレや入浴介助は、同性介助を優先し、羞恥心に配慮した支援を実施している。利用者への言葉遣いは優しく、尊敬の念を込めている。職員の守秘義務は徹底している。また利用者の写真使用など個人情報使用の同意書を作成している。個人情報は事務所で管理しているが、記録用の個人ファイルの管理に配慮が必要である。	リビングは、不特定多数の目に触れる場所であるため、利用者の記録類の管理方法の見直しが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、ご利用者様の思いを言動、行動などから理解し、代弁者となれるよう努めています。また、職員同士、一番良い方法が見つかるよう話し合います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望に沿うよう、体調や様子を見ながら、その人のペースで過ごしていただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水をつけたり、髪を梳かしたりと毎日の生活の中で心がけています。また、コミュニケーションを兼ねて、ハンドクリームをつけたり、ローションを用いフットマッサージを行い、雑誌を見ながらおしゃれの話などしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルやトレイを拭くなど、出来る範囲でお手伝いしていただいています。また、行事食の時はお刺身が出ることが多いのですが、好みでない方には別の物を準備するようにしています。	宅配業者の献立に追加し、一品職員が調理している。利用者の咀嚼に合わせた盛付けであり、利用者が自分のペースで食事ができるように支援している。献立会議と称し、利用者とチラシを見て楽しんでいる。季節行事に合わせた献立では、刺身もあるが、苦手な場合は代替え品を提供している。出前や弁当持参の外出等もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録に残し、医師や看護師に報告し指示を受けています。また、医師の指示に従い、食事量の少ないご利用者様にはエンシュアリキッドで作ったムースを毎食提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは欠かさず行なっています。自立している方には歯磨きセットを準備し、声かけを行ない、その他の方には介助して口腔ケアを行っています。また、月に2回歯科検診に来ていただいています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調、精神状態、排泄パターンを把握し、なるべく便器に座ってしていただけるように小まめなトイレ誘導を行なっている。	日中はトイレでの座位排泄を支援している。排泄チェック表を作成しており、本人が快適に排泄できるよう、介助内容を検討し実施している。時間や仕草を見て誘導している他、トイレ誘導を拒否する時は、無理強いせず、別の対処法を検討している。こまめな対応から、パッドが不要になったり、排泄の失敗が減るなどの改善事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を残し、3日排便がない時、また頻回に排便がある時など医師、看護師に相談し対応している。また、運動、水分補給、食事などにも気を配り、ヨーグルト、果物なども摂っていただくようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴の中で、気分や体調を見て行なっています。拒否があった時などは入浴日に限らず入っていただいています。また、季節により、菖蒲湯やゆず湯など楽しんでいただいています。	週2、3回を目安に入浴し、夏はシャワー浴等こまめに行っている。車椅子利用者も、湯船に浸かれるよう支援している。拒否時は無理強いせず、声掛けや時間を変えている。柚子湯や各自好みの湯温やシャンプー類で対応している。また、入浴時間は、会話を楽しんだり、自身のペースで入浴してもらうなど、楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間は特に設けず、一人ひとりの様子や状態に応じて声かけしています。また、リネンは準備していますが、好みの布団や枕などがある場合はそれを使わせていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者様の薬について理解しており、薬が変更になった時は受診記録に記載し、職員全体で把握しています。また、服薬時には職員同士で確認することを習慣付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやおしぼり作りなどのお手伝い、塗り絵、折り紙、書写、歌、ドライブ、風船バレーや卓球などご利用者様の希望にあわせ支援している。また、コーヒーのお好きな方にはブラックでレギュラーコーヒーを飲んでいただき喜ばれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はご利用者様の体調、希望を配慮しながら、散歩や外気浴をしています。また、季節や郷土の行事、ドライブ、外食などにも出掛けています。	ホーム周辺の公園まで散歩したり、敷地内で外気浴を行っている。職員と1対1で散歩をすることで、ゆっくり会話を楽しむことができ、思いを汲み、次の支援に活かしている。地域の祭り見物や季節の花見には、全利用者で外出している。併設施設の利用者とも出掛けることもあり、外出を楽しむ機会を多く計画している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は一括して行なっています。ただ、お金を持つことを要求するご利用者様もおり、以前ご利用者様同士でトラブルになったこともあったため、ご家族の了承を得て、金額を把握しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、電話をかけるお手伝いをしています。毎年、年賀状と暑中見舞いを職員がお手伝いしながら、ご利用者様の出来る範囲でお出しするようにしています。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに室温度計を設置し、室温調整や換気には気を配っています。また、月ごとにご利用者様の作成による壁面飾りなどで季節を感じていただいています。	玄関入口は、季節の飾り付けや生け花で季節を感じることができる。ホームのある2階は、程よい明るさで、利用者はソファや椅子で寛いだり、レクリェーションに興じる様子が窺えた。職員による換気や空調管理、毎朝のモップや布拭きで床は綺麗で、トイレの臭気もなく、居心地よく過ごせる清潔なリビングである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにあるソファーの置き方などを、ご利用者様の様子や状態に合わせて工夫しています。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や愛用品、ご家族の写真など持ち込んで頂き、居心地良く暮らせるように工夫している。また、テレビなども要望があれば、持ち込んでいただいています。	利用者が、ホームでの暮らしに馴染めるように、自由に持ち込むことができ、それぞれに使い慣れた箪笥やテレビを配している。家族写真や作品が飾られ、利用者が落ち着けるよう工夫している。職員は、加湿器による湿度管理、換気、温度調節、清掃で、利用者一人ひとりに合わせ支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリヤフリーであり、手すりを利用して、声かけ、見守りしながら自立した生活が送れるように支援しています。		